60 years Evolution of Atsugi

## 厚木市進化の60年記

# 平成元年〜16年

**厚木市の繁栄期　1989年〜2004年**

産業の発展を背景に、人口も20万人を突破しさらに増え続けてきた1990年代。この時代には、福祉、スポーツ、病院、情報通信、生涯学習、公園など、ここで暮らす人々の豊かさやゆとりがい、さらには生きる力をサポートする施設が続々と完成しました。

国の施策の中でも業務核都市に位置づけられるとともに、2002年には特例市として新たな一歩を踏み出すなど、首都圏の拠点として発展しました。

### End of Prosperity 1989 - 2004

With the background of industrial development, the population has increased and exceeded 200,000 in the 1990s.
In this era, a lot of public facilities were accomplished including welfare, sports, hospitals, telecommunications, lifelong learning and parks to bring affluence, motivation and energy to live.
The government designated Atsugi as "Business core city" on the country's policy and also took a new step as a"Special City" designated in 2002.
Then our city developed as a center of the metropolitan area.

Pick UP

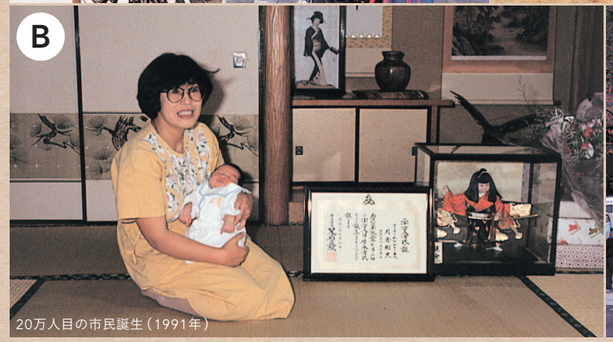
### スポーツの祭典、開催！かながわ・ゆめ国体 秋季大会

1998年に開催された「かながわ・ゆめ国体」の秋季大会。厚木市では、ソフトテニス、ソフトボール、弓道の３競技が実施されました。今も市民の皆さんに親しまれている及川球技場は、国体のソフトボールの会場として整備され、1997年にオープンしたものです。大会期間中は、多くの市民が「市民協力員」として大会の運営に携わり、全国から訪れた選手が競技に集中できるよう精一杯サポートしました。

厚木伊勢原ケーブルネットワークサービス開始（1997年）

ぼうさいの丘公園開園（2000年）

荻野運動公園競技場オープン（1989年）



20万人目の市民誕生（1991年）

庫裡橋開通式（架け替え）（1999年）

## 1989（平成元年）
- 4月　19万人目の市民誕生
- 4月　国から業務の土曜閉庁始まる（第2・第4土曜日）
- 6月　市役所業務核都市の指定を受ける
- 10月　荻野運動公園競技場オープン A

## 1990（平成2年）
- 4月　環境センター余熱利用施設「ふれあいプラザ」オープン
- 11月　福祉の拠点「総合福祉センター」オープン

## 1991（平成3年）
- 4月　厚木中央公園地下駐車場と駐車場案内システム完成
- 7月　20万人目の市民誕生 B

## 1992（平成4年）
- 4月　新座架依橋開通

## 1993（平成5年）
- 11月　荻野運動公園体育館オープン
- 愛甲石田駅連絡所オープン

## 1994（平成6年）
- 4月　消防本部に高規格救急車を配置
- 5月　東町スポーツセンターオープン
- 7月　荻野運動公園プールオープン

## 1995（平成7年）
- 7月　消防署が厚木消防署と北消防署の2署体制となる

## 1996（平成8年）
- 2月　厚木市と海老名市を結ぶ「あゆみ橋」開通
- 3月　国道412号バイパス区間が開通
- 7月　県央やまなみ応援協定締結
- 埼玉県・狭山市と「防災姉妹都市」締結
- 8月　厚木市ホームページ開設
- 9月　21万人目の市民誕生
- 11月　情報プラザオープン

## 1997（平成9年）
- 4月　厚木中央公園全面オープン
- 5月　市営及川球技場オープン
- 厚木伊勢原ケーブルネットワークが C サービス開始
- 6月

## 1998（平成10年）
- 10月　かながわ・ゆめ国体秋季大会開催
- 11月　郷土資料館オープン

Pick UP

## 1999（平成11年）
- 4月　古民家岸邸オープン
- 11月　庫裡橋架け替え工事完成 D

## 2000（平成12年）
- 2月　国道412号バイパス全面開通
- 4月　ぼうさいの丘公園オープン E
- 5月　資源化センター稼働
- 11月　北消防署新庁舎落成

## 2001（平成13年）
- 9月　厚木商工会議所新会館オープン

## 2002（平成14年）
- 4月　特例市としてスタート
- 22万人目の市民誕生

## 2003（平成15年）
- 4月　市立病院開設
- 10月　まちづくり条例スタート

## 2004（平成16年）
- 4月　南毛利学習支援センターオープン
- 5月　都市再生緊急整備地域の指定
- 6月　地域再生計画の認定
- インターネットサービス「マイタウンクラブ」開始
- 10月

60 years Evolution of Atsugi

厚木市進化の60年記

# 平成17年〜現代

## 厚木市の躍進期　2005年〜現代

まちづくりでは、自治基本条例のほか、子ども育成条例など10の条例を制定。セーフコミュニティ認証を取得するなど、安心安全なまちづくりにも力を入れています。

あつぎ国際大道芸をはじめとした新たな催しの開催や、官民複合施設「アミューあつぎ」のオープンなど、市街地の活性化にも取り組んでいます。

圏央厚木インターチェンジの開通による交通利便性を生かした産業に加え、「さがみロボット産業特区」の指定によるロボット研究開発企業の集積も期待されています。

### Era of Breakthrough 2005 – Today

Our city enacted 10 ordinances such as Basic Autonomy Ordinance of the city and Child Rearing Ordinance. We work on safety and security activities including getting a certificate of “Safe Community” by WHO. We also promote revitalization of city center through holding new events such as “Atsugi International Street-Performance”, and building “Amyu At sugi ” complex, by public and private sector funding. More accumulation of industries including robot industries will be expected by taking advantage of traffic convenience and benefits of “Robot Industry Zone” designated by the government.

Pick UP

### みんなに大人気の、「あゆコロちゃん」誕生!

市の魅力をPRするマスコットキャラクターとして、2010年に誕生した「あゆコロちゃん」。キャラクターデザインは、市民の皆さんから寄せられた851点の中から選ばれたものです。その後の活躍は、ご存知のとおり。全国のご当地キャラクターの人気を競う「ゆるキャラグランプリ」では、4年連続で県内1位。全国でも3年連続トップテン入りを果たすなど大活躍。テレビや映画にも出演するなど、厚木の魅力を全国に発信し続けています。

E 新たな街のシンボル アミューあつぎグランドオープン（2014年）

B 圏央厚木IC開通（2013年）

D 下古沢に厚木市斎場がオープン（2012年）

C 県央相模川サミットスタート（2010年）

A 安心安全なまちづくりに取り組む国際認証「セーフコミュニティ認証」取得（2010年）

G B級ご当地グルメの祭典「B-1グランプリ」を開催（2010年）

F 職員や多数の市民ボランティアが被災地を支援（2011年）

| 2015 | 2014 | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 | 2009 | 2008 | 2007 | 2006 | 2005 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| （平成27年） | （平成26年） | （平成25年） | （平成24年） | （平成23年） | （平成22年） | （平成21年） | （平成20年） | （平成19年） | （平成18年） | （平成17年） |
| 2月 市制施行60周年 あつぎ市民ふれあい都市宣言 | 12月 新・市立病院　第1期工事完成<br>6月 圏央道・厚木パーキングエリアオープン E<br>4月 アミューあつぎグランドオープン E<br>2月 経営革新度調査で全国第1位を獲得（全国812市区中） | 7月 上古沢にメガソーラー「県央厚木第二発電所」完成<br>3月 圏央厚木インターチェンジ開通 B<br>2月 圏央道あつぎウォーク開催<br>厚木市を含む9市2町がロボット産業特区に指定 | 7月 中町2丁目自転車駐車場オープン<br>4月 新斎場オープン D<br>3月 あつぎ映画祭始まる | 6月 東日本大震災支援基金・災害対策基金を設置<br>3月 東日本大震災・支援活動を展開 F | 12月 自治基本条例施行<br>あゆコロちゃん誕生 Pick UP<br>11月 清水小がインターナショナルセーフスクール認証取得（国内2校目）<br>セーフコミュニティ認証取得（国内3番目） A<br>9月 B-1グランプリを首都圏で初開催 G<br>8月 歯科保健センターリニューアル<br>4月 あつぎジャズナイト始まる<br>3月 広町公園リニューアル<br>2月 県央相模川サミット始まる C | 7月 最新鋭プラネタリウム・コスモシアターオープン<br>4月 第9次厚木市総合計画スタート | 11月 中町花の公園オープン<br>4月 あつぎ国際大道芸始まる<br>土曜日開庁スタート | 7月 にぎわい処・番屋オープン | 4月 南毛利スポーツセンターオープン | 2月 市制施行50周年<br>韓国・蔚浦市、北海道・網走市と友好都市を締結 |

# 第9次厚木市総合計画「あつぎ元気プラン」

## 将来都市像
## 「元気あふれる 創造性豊かな 協働・交流都市 あつぎ」

「あつぎ元気プラン」は、まちづくりの指針となるものです。「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市　あつぎ」を将来都市像として、まちづくりの目標や重点戦略、具体的な施策などを定めています。

厚木市は、未来に向かって持続可能な発展を続け、市民一人一人の個性が輝き、明るく元気で幸せに暮らすことができる、快適で利便性の高いまちを目指しています。限りある財源を有効に活用し「創意と工夫」「選択と集中」により、効率的な行政運営を推進し、市民協働による将来都市像の実現に向けたまちづくりを進めていきます。

**Atsugi Comprehensive Plan "Atsugi Genki Plan"**

The Atsugi Genki Plan is intended to guide urban development including basic policy of administrative management.
To reach the ideal figure in the future of the City, we set slogans "Atsugi, energetic city of creativity, collaboration and exchanges", goals, key strategies, and concrete measures of town planning.
We will continue sustainable development toward the future to brighten up individuality of every citizens, and to live happily and cheer fully.

# 安心 ATSUGI GENKI Plan Ⅰ 政策

**支え合い、安心していきいきと暮らせるまちづくり**

1. 安心して子育てできる社会の実現
2. 高齢者が生きがいを感じる社会の実現
3. 障がい者が生きがいを感じる社会の実現
4. 健康・長寿社会の実現
5. 多様な市民活動が共存する社会の実現
6. 自信と誇りを持てる人権尊重社会の実現
7. セーフコミュニティの推進による安心・安全な社会の実現
8. 安心・安全の向上に取り組む社会の実現
9. 命と暮らしを守る社会の実現

子育て支援センター「もみじの手」では、子育てに関する相談や親子同士の交流ができる場を提供

地域住民とさまざまな体験活動を行う「放課後子ども教室」

防災訓練などで地域の防災力を高める

保健師が健康相談に応じる「まちの移動保健室」

本厚木駅周辺の環境浄化パトロール



# 成長 ATSUGI GENKI Plan Ⅱ 政策

**だれもが夢をはぐくみ、自ら学び共に成長するまちづくり**

1. 学校教育の一層充実した社会の実現
2. 社会教育の一層充実した社会の実現
3. いつでも生涯学習に取り組むことができる社会の実現
4. 文化芸術に親しむことができる社会の実現
5. 誰もがスポーツに親しむことができる社会の実現

地域との絆を大切に特色ある取り組みを実施する「元気アップスクール推進事業」



名作映画などを楽しむ「あつぎ映画祭」

「輝き厚木塾」などの取り組みで生涯学習の場を提供

子ども会活動などを支援し青少年の健全育成につなげる

誰もがスポーツにふれあえる環境を整備

# 共生 ATSUGI GENKI Plan Ⅲ 政策

**みんなでつくる、**
**自然環境と共生するまちづくり**

1. 地球温暖化防止・低炭素社会の実現
2. 持続可能な循環型社会の実現
3. 自然と共生する社会の実現
4. 豊かな生活環境の実現
5. 河川と共生する社会の実現

県内で初めて民間事業者によるメガソーラーを上古沢に誘致

豊かな森林を守る活動を支援

クリーンキャンペーンの実施で河川環境の美化を推進

「(仮称)健康こどもの森」をはじめとした公園などの整備を推進し、豊かな生活環境を実現

資源回収の推進などで環境に優しいまちへ



# 快適 ATSUGI GENKI Plan Ⅳ 政策

**にぎわいあふれる、**
**快適で利便性の高いまちづくり**

1. 活力ある中心市街地の実現
2. 地域特性をいかした魅力あるまちの実現
3. 快適生活空間の実現
4. 企業・商業活動が活発なまちの実現
5. 新たな戦略による観光のまちの実現
6. 都市農業・林業をいかした地域産業の実現
7. 安心して働くことができる社会の実現

厚木市まるごとショップ「あつまる」を通じて市の特産品や観光をＰＲ

新たな産業の拠点を整備する「森の里東土地区画整理事業」

獣害防護柵の設置で農業をしやすい安全な環境を確保

本厚木駅南口地区第一種市街地再開発事業完成イメージ

「圏央道厚木パーキングエリア」へのスマートインターチェンジの整備

# 信頼政策

ATSUGI GENKI Plan V

**市民の信頼に応える、**
**ひらかれた行政経営のまちづくり**

1 あつぎの魅力の創造と発信
2 市民参加・市民協働の推進
3 行財政改革の推進
4 都市間連携の推進

2014年2月には経営革新度調査で日本一の評価を獲得

地域住民が道路を美化する「道路里親制度」

マスコットキャラクター「あゆコロちゃん」を通じて市の魅力をＰＲ

川崎市、相模原市、海老名市、座間市、愛川町などと実施した圏央道での事故対応訓練

市民の立場で市の事業を点検する「市民参加型外部評価」を公開の場で実施

ATSUGI MOVEMENT

# 進行するビッグプロジェクト

## ～健やかな暮らしと未来の笑顔のために～

快適な暮らしを支えるのは、健康な体です。子どもたちの笑顔を創造するのは、健やかな心です。
厚木市は、そんな考えから、健やかな暮らしと未来の笑顔のための施設を充実させています。
地域の皆さんの健康と命を支え、自然とともに子どもたちの未来を育んでいます。

## 【厚木市立病院】

### 最新の設備と機能により、皆さんの命を守り健康を支えます。

医療技術の高度化に対応し、市民の皆さんのニーズに幅広く応えるため新･市立病院の建設が進んでいます。第1期工事を終え、救急手術棟、A棟（病棟）が完成。2015年3月に新病院機能の70％が稼働します。2017年の全面オープンを目指し、HCU（準集中治療室）や感染症病床を備えたB棟（病棟、外来診療部門）の整備を進めます。

新病院では、救急医療の充実を図るとともに、ICU（集中治療室）、CCU（冠動脈疾患集中治療室）の新設やハイブリッド手術室を含む手術室の増室など、高度医療の中核を担う部門を充実。さらに、建物への免震構造の採用や電力供給の二重化、非常用自家発電設備の強化など、災害医療拠点病院としての機能も充実します。

最新の医療機器と機能、専門性の高い診療科を充実させた新しい市立病院。現在から未来へ向けて、地域医療の中核を担っていきます。

## 【（仮称）健康こどもの森】

### 遊んで学んで元気になれる、自然体験活動の新たな拠点です。

自然の中でいきいき、のびのびと子どもたちが遊び、学ぶ場所を作りたい…そんな願いから生まれるのが、（仮称）健康こどもの森です。ここには、木々の間をすり抜けて飛ぶ鳥のような感覚とスピード感が体験できる106mの「森のすべり台」や、日常見ることのできない高さから動植物が観察できる「空中回廊」など、子どもたちの感性を刺激する仕掛けがたくさん用意されています。さらに、四季折々の自然やさまざまな動物たちとふれあいながら、本当の自然を体験・観察できるのもこの施設の魅力の一つです。

また、その昔、田んぼや畑だった里地を復元し、実際にお米などの農作物を作る農業体験を行うなど、本来の自然との共生も実体験できます。自然体験活動の拠点となる施設として、遊んで学びながら次世代を担う子どもたちの感性を育みます。

People @ Future
未来へ繋げる人々

「あゆコロちゃん」作者

# 平井　遥さん

#01

## 2

010年に、851点の応募作品から選ばれ誕生した厚木市のマスコットキャラクター「あゆコロちゃん」。平井遥さんが生み出したやんちゃな男の子は今や、ゆるキャラグランプリで3年連続トップテン入りを果たすなど、子どもから大人まで大人気です。

平井さんは美術大学を卒業後、キャラクターデザインの仕事を希望しながらも進む道を模索中でした。そんな時、ふと目にした「広報あつぎ」のキャラクター募集の記事。「生まれてずっと厚木に住んでいる私なら、きっと厚木ならではのキャラクターを描ける」と創作を開始します。イメージを膨らませ試行錯誤を繰り返し、複数の候補を描いた平井さん。最終的に応募したのは、一番初めに手掛けた「ブタの頭にアユが載っているのは、さすがにふざけているかな」と思っていたデザインでした。

## 『あゆコロちゃん』の生みの親

平井さんは今のあゆコロちゃんの人気に驚いている一方、納得している部分もあるといいます。「厚木の人は、本当に厚木が好き。まちをもっと活性化させたいとみんな思っているので、応援してくれているんだと思う」とほほ笑みます。作者としての願いは、市民の皆さんにずっと愛されるキャラクターであること。そのためには変化も必要と考え、将来、あゆコロちゃんに恋人や家族ができて人の暮らしに寄り添っていくという未来像も心に描いています。

生粋の「あつぎっ子」が生み出したキャラクターは、作者の想像を超え市外やテレビなどでも厚木のPRに大活躍しています。平井さんは、あゆコロちゃんの活躍をこれからも優しいまなざしで見守っていきます。

Profile

**ひらい　はるか**

1988年生まれ。林出身・在住。緑ケ丘小学校・林中学校・厚木高校・女子美術大学卒業。相模原市職員。最初の作品が母子手帳の落書きというほど、生まれながら絵が好きな子どもだった。市制60周年のロゴもデザイン。



People @ Future
未来へ繋げる人々

水墨画家

# 又村　和夫さん

#02

## 60

歳から水墨画を描き始め、2011年の文部科学大臣賞など、多くの賞を受賞している水墨画家、又村和夫さん。年齢を重ねるごとに深まる又村さんの水墨画は、二つの思いが根幹となり生み出されています。

その一つが、厚木の原風景です。「記憶に刻まれている厚木の風景や人々。私が子どもの頃に見てきたものを水墨画に残したい」と話す又村さん。飯山や七沢周辺へと足を運び、絵のモチーフとなる風景を探すのも楽しみの一つです。これらの地域には、まだまだ又村さんの脳裏に浮かぶ厚木の原風景が残り、創作意欲をかき立ててくれます。また「公民館などで開いている水墨画教室で、生徒の笑顔を見ることも創作のエネルギーになっている」と又村さんは話します。

## 厚木の原風景を筆に託して

もう一つは、温かさ。初期から描き続けているスズメをはじめ、雪の中のお地蔵さんや村の人々など、仲良く寄り添っている姿を又村さんは数多く描いています。又村さんにとって「水墨画を見て心が温かくなった」という言葉は、最高の褒め言葉です。人の心に癒しを与える作風は、水墨画を描き始めてから多くの賞を獲るようになった今も変わることはありません。

又村さんの創作の根幹となっている二つの思いの先にあるのは「未来の子どもたちに素晴らしい厚木の自然や暮らしを伝えたい」という強い願いです。自身が子どもの頃に体験した豊かな毎日に思いをはせながら、これからも厚木の美しい原風景を心温まる水墨画に置き変えていきます。

Profile

**またむら　かずお**

1933年生まれ。妻田西出身・在住。サロン・デ・ボザール展奨励賞、文部科学大臣賞など数多く受賞。展覧会、水墨画教室などで活躍するほか、市に『富士山』『游』を寄付。『ダットサン』『トヨタスポーツ800』『フェアレディ』を所有する、クラッシックカーのコレクターとしての一面を持つ。記念誌の表紙も手掛ける。

People @ Future 未来へ繋げる人々

相模国飯山白龍太鼓保存会　会長

# 丹羽　結希さん

#03

**力**

強いばちさばきで息の合ったリズムを刻む飯山白龍太鼓。公演では客席が一体となった手拍子が自然と沸き起こる、今イベントに引っ張りだこの太鼓集団です。会員40人を率いているのは会長の丹羽結希さん。「太鼓を叩いている時がとにかく楽しい」とにこやかに笑う若きリーダーは、創立37年の伝統を守りながらも白龍太鼓のさらなる進化に向け歩み続けています。

新たな活動として２０１３年から始めた東北公演。太鼓で元気を届けようと、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市の商店街や中学校などを夏場に訪問しています。公演では太鼓で思いを届けるだけでなく、観てくれる人々とふれあう時間を積極的に設けました。「自分たちから進んで交流を持つことは厚木に帰ってもできるはず」。子どもたちから飛び出した思わぬ提案に、丹羽さんはメンバーの確かな成長を感じています。

## 太鼓で結ぶ人と人のつながり

丹羽さんも小学３年から太鼓を始め、厳しい練習にも「中途半端で辞めるのは悔しい」と続けてきました。次第にメンバーとつながりが持てたり褒めてもらえる喜びを感じられたりと、太鼓の魅力に心を奪われていきます。ふるさと飯山で叩き続け、東北公演を経て深めた思いは「太鼓には人と人を結び付ける力がある」こと。頼りになる仲間たちとの絆も太鼓がくれたかけがえのない宝物です。

「50周年という大きな節目も見据えた上で、仲間と共に40周年に向かっていきたい」と未来を見つめる丹羽さん。あらためて白龍太鼓を知ってもらうことをこれからのテーマに掲げ、人々の心に響く音色を打ち鳴らしていきます。

**Profile**

**にわ　ゆうき**

1988年生まれ。飯山出身・在住。飯山小学校・小鮎中学校・厚木西高校卒業。2013年に会長に就任。白龍太鼓は地域に伝わる白龍伝説にちなんだもので、県民俗芸能50選にも選ばれている郷土芸能。大人連と子供連があり会員は40人。市内外の催しで年間30回ほどの公演をこなす。

People @ Future 未来へ繋げる人々

NPO 法人「日本わらべうた協会」理事長

# 田村　洋子さん

#04



**昔**

の人の暮らしや季節、自然の風景を歌の中に宿し、遊びを通して子どもの五感を育む「わらべうた」。ＮＰＯ法人「日本わらべうた協会」理事長の田村洋子さんは、現代、そして未来の子どもたちに「先人が築いた古き良き文化を伝え、残したい」という願いを胸に、26年にわたり市内外でわらべうたの魅力を伝えています。

田村さんとわらべうたとの出会いは、自身が子育ての真っ最中だったころ。不思議と親子で穏やかな時間を共有できることに気付き、その魅力を広めたいと考えるようになりました。また、『ちんちろりん　かたさせ　すそさせ　さむさがくるぞ』という有名な歌が厚木に深いゆかりがあったことも、田村さんの背中を押しました。

## 昔あそびを今に伝える

そんな田村さんの地道な活動が実り、２０１２年から市との協働事業として「今につながる昔の暮らし～郷土料理とわらべうた～」を3年にわたり実施。公民館でさまざまな年代の参加者と地域のお年寄りと一緒に、郷土料理を作りわらべうたを歌いました。田村さんは「参加者の皆さんの心が一つになるのを感じて、あらめて歌の大切さを実感した」と振り返ります。

「雄大な山や川に包まれた厚木周辺の自然は、わらべうたの世界そのもの」。田村さんは、わらべうたと厚木の自然環境に深いつながりを感じています。「インターネットでどんな情報も得られる今こそ、私は人から人へ伝えることの温かさを大切に、未来へ繋げていきたい」。たくさんの人に笑顔をもたらす活動は、とどまることなく続いていきます。

**Profile**

**たむら　ようこ**

1950年生まれ。横浜市出身。林在住。NPO 法人「日本わらべうた協会」理事長として、わらべうたの大切さを伝える「わらべうたであそぼう」を毎月実施。東京おもちゃ美術館のおもちゃ学芸員のほか、おもちゃコンサルタントマスター、高齢者アクティビティディレクターとしても活躍中。

厚木市自治会連絡協議会 会長

# 小瀬村　泰久さん

#05

下校する子どもを見守る「愛の目運動」、いざという時に備える自主防災隊、地域の美化清掃、住民同士の絆を深める運動会や盆踊り―　自治会は住民に寄り添い、より良い地域づくりに取り組んでいます。「地域のために、みんなで知恵を出し合って、みんなで汗をかこうよ」。小瀬村泰久さんは、折に触れてこの言葉を口にし、自治会活動の先頭に立ってきました。

小瀬村さんは37歳の時、自治会の役員になったことをきっかけに地域活動を始めました。仲間と活動を続ける中で、多くの人が笑顔になり絆を深めていく姿を目にするにつれ、その魅力に惹かれていきました。「月曜から土曜まで働いて、日曜は地域活動。退職までその繰り返しだったね」と笑う小瀬村さん。支えてくれた地域の仲間や家族への感謝も忘れません。

## 明るい地域で　明るい子どもを育てよう

市制60周年を前に、温水の水田地帯では、住民を集めての大縄引き大会が開かれました。住民同士のつながりを深めようと小瀬村さんたちが企画した、初めての試みです。大会には、大人から子どもまで１０００人を超える住民が参加。一本の綱を握り、力いっぱい引き合う姿に、小瀬村さんは力強い声援を送りました。

「明るい地域には、明るい子どもが育つ」。長年地域活動に携わってきた小瀬村さんのモットーです。厚木市が誕生した時に中学生だったという小瀬村さん。市の移り変わりをずっと見てきました。「将来を担う子どもたちを、地域全体で育てていくことが、明日の厚木市をつくる」。市の未来を見据え、地域活動に汗を流す日々が続きます。

Profile

**こせむら　やすひさ**

1940年生まれ。小野出身。温水在住。温水第一自治会・南毛利地区自治会連絡協議会・厚木市自治会連絡協議会会長。市制60周年記念事業実行委員長なども務める。過去には、青少年健全育成会や子ども会の活動にも携わり、将来を担う子どもたちの育成に力を注いできた。

ATSUGI MOVEMENT

# さがみロボット産業特区、あつぎ

## ～人口減少・高齢化社会の進展・自然災害への対応に向けたロボットの研究開発～

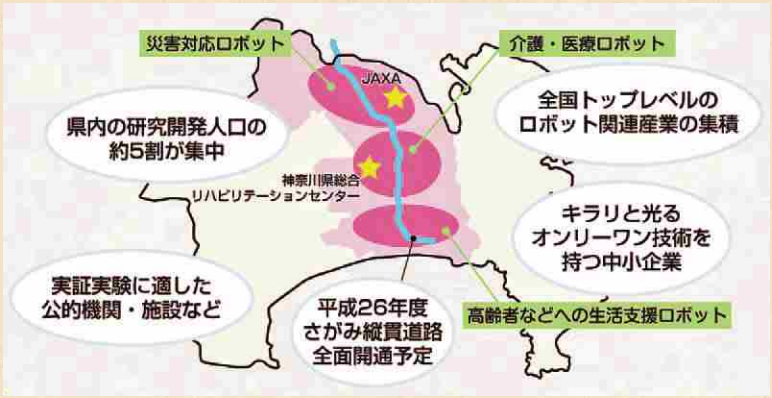
2013年2月、厚木市を含むさがみ縦貫道路の沿線地域は、
国が定める「さがみロボット産業特区」に指定されました。
介護の人手不足や要介護者の増加に加え、いつ起こるか分からない
自然災害などから皆さんの命を守るため、
生活支援ロボットの技術開発が進んでいます。

### 生活支援ロボットの実用化を通じた地域の安全・安心の実現を

さがみロボット産業特区は、「災害対応」「介護・医療」「高齢者などへの生活支援」の三つのエリアで構成されています（右図参照）。

厚木市は、神奈川県総合リハビリテーションセンターをはじめとするロボット関係の実証実験・研究を行う施設や技術力の高い企業が集積していることなどから、「介護・医療ロボット」エリアに指定されました。

現在、こうした企業などの技術開発により、生活支援ロボットの研究開発や実証実験が進んでいます。



### 未来のために、ロボット産業の振興と集積を

市では、さがみロボット産業特区の指定に先駆け、2013年にロボット産業推進事業補助金を予算化。市内企業や大学などが連携して進めるロボットの研究開発と、製品化に向けた取り組みを積極的に支援しています。さらに、厚木発のロボットを広くＰＲすることにより、市内のロボット産業の振興と集積を目指しています。

### LLP アトムプロジェクトの挑戦

市内では、特区の指定に先駆けロボットの開発に着手していた人たちがいます。市内の中小企業の経営者たちで組織する「有限責任事業組合LLP アトムプロジェクト」の皆さんです。ロボット産業でまちを盛り上げようと、2009年8月に結成。神奈川工科大学の研究成果を基に、まひの残る手のリハビリを補助する器具「パワーアシストハンド」の開発を進めてきました。実証には、七沢リハビリテーション病院脳血管センターの協力も得ました。

パワーアシストハンドは2014年6月に販売を開始。8月にはさがみロボット産業特区発のロボット第1号として、県知事から表彰を受けました。メンバーたちは「厚木市を世界に通じる介護ロボット産業の研究開発拠点都市にしていく」という夢を掲げ、器具のさらなる改良や新製品の開発などに励んでいます。あつぎものづくりブランドプロジェクト「ATSUMO」（P18参照）と共に、今後の活躍が期待されています。

# #01 厚木地域

交通、商業、コミュニティと
市の中心としてにぎわいを見せる

厚木北地区
厚木南地区

小田急線本厚木駅や市役所がある、厚木市の中心といえる地域。大型小売店や商店が軒を連ね、国道246号や県道酒井金田線が横断するなど、交通の利便性にも優れています。また、官民複合施設アミューあつぎや総合福祉センター、図書館、市立病院、警察署など主要な施設が集結していることから、厚木市のコミュニティの中心としての役割を果たしています。

市内外から多くの人がバーベキューを楽しみに訪れる三川合流点

市指定史跡「旧厚木村渡船場跡」

多くのバラが咲き誇る相模川ローズガーデン

一年の無病息災を願うどんど焼き

町内の路地を元気に練り歩く元町の子どもみこし

七五三のお参りでにぎわう厚木神社

毎年11月の酉の日に大鷲神社で開催される「酉の市」

## Local Community Atsugi Region

With Hon-Atsugi Station on the Odakyu Line and City Hall, it can be called the center of Atsugi City. Large retail stores and small shops standing side by side, Route 246, and Prefectural Road Sakai Kaneda make this area exceptionally convenient for transportation. This area plays a central role in Atsugi City with major facilities such as Amyu Atsugi, the Integrated Welfare Center, library, the City Hospital, and the Police Station all gathered in one area.





# #02 依知地域

水の恵みが育む田園と
のどかな環境と共に

依知北地区
依知南地区

東に相模川、西に中津川が流れる、水と緑に恵まれた地域。国道129号を中心に南北に広がる地域には田園風景も残り、のどかで暮らしやすい環境が特徴です。その昔、依知地域では、養蚕が盛んでした。現在は内陸工業団地などへの企業集積に加え、圏央道の開通を背景に物流施設の立地が進んでいます。さらに、妙純寺、浅間神社の銅鐘、依知神社のイチョウなど、社寺や史跡、記念物も点在しています。

2013年３月に開通した圏央道

依知神社のイチョウは市の天然記念物

健やかな心身を育む子ども相撲大会

地域を挙げて開催される大運動会

## Echi Region

With Sagami River flowing in the east, Nakatsu River flowing in the west, Echi Region is blessed with water and green. Spreading from the north to the south along the Route 129, special characteristic of this area is the hospitable environment with the remaining tranquility of the rural landscape. In the Echi Region, the sericulture industry was thriving in the past. Now, many companies have been integrated such as Nairiku industrial parks and logistics companies are situated by the opening the Ken-O Expressway. In addition, there are shrines, temples, historical sites, monuments, such as Myojun Temple, the Copper Bell of Sengen Shrine, and the ginkgo trees of Echi Shrine.

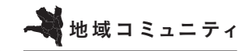
関口の農園で楽しめるブドウ狩り

金田神社の祭りで披露される金田囃子太鼓

マナー向上を訴える金田陸橋の清掃活動

# #03 睦合地域

河川と農地が融合し、歴史的建造物を有する

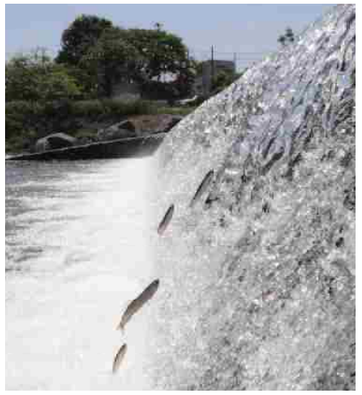


睦合北地区
睦合南地区
睦合西地区

清らかな流れの中津川沿いに田園風景が広がる、美しい地域です。地域内には小鮎川や荻野川も流れ、水辺豊かな潤いのある景観が広がります。国体の会場として1997年にオープンした及川球技場では、子どもから大人までがスポーツに汗を流します。さらに、歴史的建造物でもある妻田薬師とクスノキ、清源院、福伝寺などが有名です。林には、国指定重要無形民俗文化財の相模人形芝居も伝わっています。

安らぎと潤いを感じさせる三田せせらぎの小道

国指定重要無形民俗文化財「相模人形芝居林座」



春を迎え中津川を遡上する鮎

小鮎川で開催される子ども魚つかみどり大会

神奈川県名木100選に選ばれている妻田薬師のクスノキ

端午の節句を祝う三田の大凧

鮮やかな緑の人工芝が敷き詰められた及川球技場

## Mutsuai Region

With the countryside spread along the fresh stream of Nakatsu River, it is such a beautiful area. With Koayu River and Ogino River also flowing in the region, a moist and rich scenery expands. There is the Oigawa Playing Field to play sports which was built as the field of National Athletic Meet in 1997. In addition, there are famous, historic buildings such as "Tsumada Yakushi and Okusu", Seigen-in, and Fukuden-ji Temple. In Hayashi area, traditional Sagami Puppet Play is passed down for generation, which is designated as important intangible cultural heritage of Japan.





# #04 荻野地域

人と自然が調和しながら、成長を続ける



荻野地区

荻野川が中央部を流れる緑豊かな地域です。国道412号沿いには、商店が建ち並び、荻野運動公園や広町公園など、人々の交流の場も整備されています。荻野川沿いに続く「健康･交流のみち」では、朝夕を中心に散歩を楽しむ人たちの姿が多く見られます。また、荻野神社や荻野山中藩陣屋跡、古民家岸邸など、歴史的建造物や史跡も現存。新しく住まいを構える人と古くから住む人が交流する地域です。

義太夫語り台が復活した、下荻野にある子合地蔵尊のお祭り

全長62mの荻野運動公園の滑り台

荻野自然観察会による昆虫や植物などの観察

多くの雛飾りが古民家を彩る岸邸の雛祭り

2010年にリニューアルした広町公園

標高235m を登る鳶尾山のハイキングコース

## Ogino Region

Ogino Region is the lush area with Ogino River flowing in its middle. Shops line Route 412 and there are places for people to gather, such as Ogino Sports Park and Hiro-machi Park. On the "Health and Exchange Street" along the Ogino River, you can see many people enjoying walks in the morning and the evening. There are extant historic structures such as Ogino Shrine, the remains of the Ogino Yamanaka Clan Encampment, the Kishi old folk house. It's a friendly area where new and old residents interact together.

12月に出荷のピークを迎えるシクラメン栽培

# #05 小鮎地域

飯山温泉郷をはじめ、市内外の人たちが多く訪れる

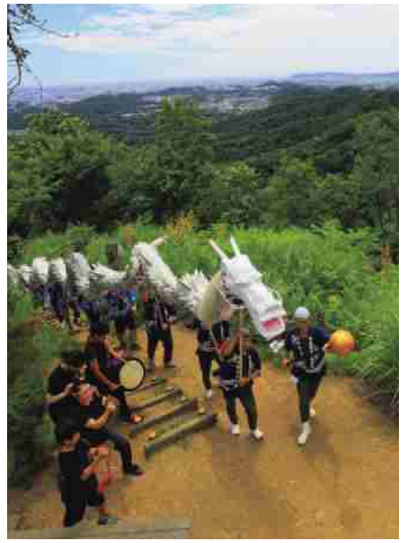
小鮎地区

小鮎川、恩曽川の清流と上古沢緑地、飯山白山森林公園などの豊かな緑が織りなす自然に恵まれた地域です。華やかなみこしが練り歩く春の飯山桜まつりなど、趣向を凝らした季節のイベントも人気です。さらに、飯山温泉郷やハイキングコース、ゴルフ場もあり、市内外から多くの人が訪れます。また、飯山観音や龍蔵神社などの社寺や史跡が点在する歴史豊かな地域です。

開花時期の６月に開催されるあやめ祭り

飯山温泉芸妓の撮影会も行われた秋の花まつり

2012年に結成35周年を迎えた飯山白龍太鼓は市内外のさまざまなイベントに出演



四季の祭りを彩る飯山白龍の舞

縁結びの寺として有名な飯山観音（長谷寺）

長いそうめん流しが名物の小鮎川リバーフェスタ

5万2000本のツツジが咲き誇る上古沢緑地のあつぎつつじの丘公園

## Koayu Region

This area is filled with the blessings of nature like fresh streams of Koayu River, Onzo River, and the lush greenery of Kamifurusawa Green Park, Iiyama Hakusan Forest Park. There are popular seasonal events such as the Iiyama Sakura Festival, where people parade with mikoshi-shrines. In addition, as there are the Iiyama hot spring village, hiking trails, and golf to attract a lot of visitors and local people.





# #06 南毛利地域

自然と歴史が調和し、民俗芸能も伝承されている

南毛利地区
南毛利南地区
緑ケ丘地区

恩曽川と玉川沿いに広がる美しい田園風景と、大規模な宅地開発などで生まれた閑静な住宅街が特徴的な地域です。地域の中央には、ぼうさいの丘公園があり、季節ごとに多彩なイベントが開かれています。また、相模人形芝居やささら踊りなどの郷土芸能が、地域の貴重な文化財として伝承されているほか、春日神社、天神山古墳、熊野神社、地頭山古墳など、悠久の時を刻む史跡も残っています。

国指定重要無形民俗文化財「相模人形芝居長谷座」

王子にある文郷山団地の「木曜マーケット！楽・得ショップ」

緑ケ丘地区の恒例行事として地域に根付く「ふるさと祭り」

恩曽川沿いの水田で開かれた大縄引きフェスティバル

ぼうさいの丘公園に設置されたあつぎ素敵美術館

愛甲の田んぼで熱戦が展開されるどろんこバレー

## Nanmouri Region

This is distinct for its beautiful countryside along Onzo River and Tama River and its quiet residential area by massive estate development. In the center of the region, there is a disaster prevention mound park called "Bosainooka Park" where many kinds of events are held in each season. In addition, there is local performing arts, such as Sagami Puppet Play and Sasara Dance which have been carried on the tradition of valuable and cultural assets in the region. Historic sites to be nurtured by eternal history such as Kasuga Shrine, Tenjinyama Ancient Tomb, Kumano Shrine, Jitoyama Ancient remain.

手作り甲冑隊がパレードする愛甲三郎納涼まつり

地域コミュニティ

Local Community

# #07

# 玉川地域

自然を楽しむために、
多くの人でにぎわいをみせる

玉川地区
森の里地区

広大な緑が広がる七沢森林公園や温泉郷などを目当てに多くの人が訪れる地域です。丹沢大山自然公園や小町緑地など、自然に恵まれた環境が特徴です。特に新緑や紅葉の時期には、憩いと癒しを求める家族などでにぎわいます。住宅地への入居から30周年を迎える森の里地区では、地域住民が独自のまちづくりを展開しているほか、地区内には企業の研究所などが集積しています。

七沢にある高さ約４m、幅約10mの亀石

４月から５月に多数の鯉のぼりが若宮公園を泳ぐ

料理レシピの人気ブロガー柳田昇さんの料理教室

端午の節句で揚げられていた、地域に古くから伝わるせんみ凧

森の里地区の夏祭りで行われるこども盆踊り

「小野小町伝説」を後世に伝える小野小町まつり

## Tamagawa Region

The vast greenery of Nanasawa Forest Park and hot spring village in this area draw visitors and local people. This area has the Tanzawa-Oyama Prefectural Natural Park, Kamifurusawa Green Space, Komachi Green Space. Especially in the season of fresh greenery and in autumn,this area is full of families and tour groups to seek healing. In the Morinosato District, it has been 30 years since people moved into as residential area. This district is advanced in the own community development by its residents, and also many industrial research laboratories are gathered.

若宮公園のステージで開かれるふくろうの森コンサート



地域コミュニティ

Local Community

# #08

# 相川地域

多様な農業が盛んな
厚木の南の玄関口

相川地区

相模川と田園の景観が美しい地域です。東名厚木インターチェンジがあり、交通の要衝として多くの車が行き交います。大山の背後には、雄大な富士山の姿も望めます。古くは相模川の「戸田の渡し」が有名でした。地域にはナシ、ブドウ、イチゴなどの観光農園があるほか、カーネーションやシクラメンなど花の栽培も盛んです。新東名高速道路の「厚木南インターチェンジ」ができることから、さらなる発展が期待できます。

1月から5月までイチゴ狩りが楽しめる

雄大な富士山の姿も望める

家族みんなで楽しむいも掘り大会

神社の例祭などで公演する相模里神楽垣澤社中

## Aikawa Region

This area has beautiful landscape of Sagami River and countryside view. Behind Oyama mountain you can see the majestic figure of Mount Fuji. There is also the Atsugi Interchange of Expressway which is an important hub for traffic coming and going. Ancient fame was the “Toda Pass”. The region has pears, grapes, strawberries and other tourist farms, and flower cultivation such as carnations and cyclamens. In the future, the Atsugi South Interchange of the Shin-Tomei Expressway will open, and further developments can be expected.

クリスマスに合わせて生産されるポインセチア

相模川に咲く絶滅危惧種のカワラノギクを保護

主に贈答用に生産されるメロン

# 角野 亮伍さん

日本バスケットボール界の次世代エース、角野亮伍さん。厚木中学校を卒業後に実家を離れ、バスケットボールの名門校の一つ藤枝明誠高等学校（静岡県）に進学し、全国屈指のフォワードとして活躍してきました。

角野さんには、頭から離れない厚木中学時代の苦い思い出があります。「二つ年上の兄もバスケをやっていて、一緒に日本一を目指し練習漬けの毎日を送っていたのですが、成し遂げられなくて…」と、悔しそうに語る角野さん。藤枝明誠高校に進んだのも「もう一度、兄と一緒に全国を目指したい」という気持ちからでした。

高校でもその目標には手が届きませんでしたが、2013年のインターハイでは、準優勝を達成。個人としても得点ランキング1位に輝くなど、全国トップレベルのプレーヤーへと成長していきました。厚木中学校の時に味わった悔しさは、今も角野さんを奮い立たせるエネルギー源となっています。

## 常にトップを目指して

「将来は、NBA（アメリカのプロバスケットボールリーグ）の選手として活躍したい」と角野さんは強いまなざしで語ります。その目標に少しでも近づくため、本場のバスケットボールを体感できるアメリカ留学の道を、高校卒業後の進路に選びました。そして、角野さんにはもう一つの大きな夢があります。「日本代表に選ばれて2020年の東京オリンピックに出場すること」。類いまれなる才能と惜しみない努力で進化を続ける角野さん。これから駆け上がる夢の舞台は、決して遠い場所ではありません。

Profile

藤枝明誠高等学校 バスケットボール部3年

**すみの りょうご**

1997年生まれ。旭町出身。厚木中学校卒業。10歳でバスケットボールを始め14歳でU-16（16歳以下）代表、16歳の時に史上最年少でバスケットボール男子日本代表候補に選出。現在、U-18（18歳以下）の代表選手として活躍中。

# 井上 純さん

Profile

アーティスト

**いのうえ じゅん**

1981年生まれ、上荻野出身。多摩美術大学卒業。2010年ナイキ本社の壁画制作、2012年にはファッションブランドMIHARAYASUHIROパリコレクションの舞台でライブペイントを実施。数多くのブランドや企業とのコラボレーションを展開。オーストラリア・メルボルンでの個展開催など、国内外で活躍中。

## 自分に健全な表現を

頭に浮かぶ独自の「美」を、筆やスプレーなど多彩な道具を使いキャンバスに描き出す表現者。井上純さんは、厚木市で生まれ育ったアーティストです。躍動する線、繊細な書き込み、日本の「書」を思わせる墨の濃淡、鮮やかな色彩、そして、何も描かれていない空間が絶妙なバランスで調和し、見る人の思考を揺さぶりま す。表現の受け皿は、キャンバスだけにとどまりません。壁や洋服、靴などが井上さんの表現する「美」をまとい、国内外で多くの人を魅了しています。

「小さい頃、二人の兄と荻野の自然の中で遊んでいた。自分の創造性はそこで育まれたと思う」と話す井上さん。物心ついた頃から、絵を描いたり、段ボールで工作をしたりするのが好きな子どもでした。高校生の頃から、ストリートアートにのめり込み、大学卒業後も、創作活動を継続。しかし、個展を開いても買い手が付かず、葛藤する日々が続きました。井上さんの表現に光が当たり始めたのは、友人の誘いで開いたオーストラリアでの個展がきっかけでした。現地で高い評価を受け、2012年にはフランス・パリのファッションショーでライブペイントを披露するなど、活動の場を広げています。

創作に当たって大切にしているのは「自分に健全であること」。余計な思考を入れず頭を真っ白にし、思うがまま、感じるがままにキャンバスに向かいます。「次々と湧いてくるアイデアを具現化するのは時間がかかる。一生何かを表現し続けていると思う」と話す井上さん。アメリカやヨーロッパなどアートの最高峰で勝負したいという思いも抱いています。厚木の地で育まれた創造性は、世界の舞台へと羽ばたいていきます。

## 国内外に広がる交流で、さらなる躍進をめざす

### 防災姉妹都市

埼玉県 **狭山市**

■防災姉妹都市締結：1996年7月24日

人口：15万4384人

面積：49.04km²

狭山市は、東京から40km圏内に位置し、国道16号や圏央道など交通の利便性と優れた環境により、県内トップクラスの工業都市として成長してきました。また、地域産業である狭山茶をはじめ、里芋やほうれん草などの野菜の産地としても有名です。

### 友好都市

北海道 **網走市**

■友好都市締結：2005年2月5日

人口：3万7568人

面積：471.00km²

網走市は、神秘的な流氷で知られるオホーツク海や五つの湖、「天につながる都の山」と呼ばれる天都山など、雄大な自然の宝庫です。観光地としても多くの人に親しまれ、網走刑務所を移転保存した博物館「網走監獄」やオホーツク流氷館は人気のスポットになっています。

### 友好都市

大韓民国 京畿道 **軍浦（くんぽ）市**

■友好都市締結：2005年2月5日

人口：28万8583人

面積：36.46km²

軍浦市は、首都ソウルから南に約23kmに位置し、東にモラックサン、西に修理山、南に五峰山を望むことのできる自然豊かな都市です。便利な交通網と道路が整備されていることから、首都圏の中核都市として急速に成長し、文化・産業・交通の要衝地として脚光を浴びています。

### 友好都市

秋田県 **横手市**

■友好都市締結：1985年5月24日

人口：9万6072人

面積：693.04km²

東北の「小京都」といわれる横手市は、横手盆地の中央に位置し、東の奥羽山脈から続く横手川が市街地を流れ、石坂洋次郎の小説「山と川のある町」の舞台にもなった美しい街です。豊かな自然が織りなす四季折々の祭りが開かれ、特に毎年2月に開催される雪まつりのかまくらは有名です。

### 友好都市

中華人民共和国江蘇省 **揚州（ようしゅう）市**

■友好都市締結：1984年10月23日

人口：460万人

面積：6658km²

揚州市は、中国の中でも2500年に及ぶ長い歴史を持っている、風光明媚な景色が広がる街です。古くから水運に恵まれ、北は淮河、中部は京杭大運河、南は長江（揚子江）が悠久の流れを見せています。揚州に生まれ、日本の仏教の祖といわれる鑑真和尚など、日本との関わりも深い土地です。

### 友好都市

アメリカ合衆国コネチカット州 **ニューブリテン市**

■友好都市締結：1983年5月31日

人口：7万3206人

面積：34.7 km²

コネチカット州ニューブリテン市は、アメリカ北東部のニューヨークとボストンの中間に位置する豊かな自然環境に恵まれた美しい都市。市内には32カ所の公園があり、美術館や劇場も多く、芸術や文化の調和した、教育文化都市にふさわしいたたずまいを見せる街です。

School of Atsugi

# 生きる力を育む学び舎

学ぶ楽しさがわかる授業、わくわくドキドキの野外体験、心身を鍛える部活動、友達と語らうかけがえのない時間・・・。一生の宝物となる思い出を心に刻みながら、子どもたちは日々成長しています。市では教育のあるべき姿を「未来を担う人づくり」と捉え、子どもたちの確かな学力や健全な心身を育んでいます。

**Schools to cultivate The Energy To Live**

Lessons to realize the pleasure of learning, out door experiences with excitement, extracurricular activities to train mind and body,and irreplaceable time to talk with friends... Children grow everyday with lifetime memories. The best form of education is "Human development for those who will support the future", and we nurture solid academics and health of body and mind.

## 清水小学校

**～安全な学校づくりへの継続した取り組み～**

清水小学校は、2010年に国内で2校目、市町村立小学校としては初めてインターナショナルセーフスクール（ISS）認証を受けました。認証後も児童、保護者、地域住民、教職員が一体となった取り組みは続き、2013年には再認証を果たしました。児童会の運営委員会を中心に、安全な学校づくりの体制と仕組みが確立されている清水小。けがの発生に対して、子どもたちは日々、自ら考え取り組みの改善を繰り返しています。

### ● インターナショナルセーフスクール ●

WHO（世界保健機関）セーフコミュニティ推進協働センターが、より安全な教育環境づくりに取り組む学校に与える国際認証です。認証には、取り組みの効果を測る評価基準や安全計画の策定、運営体制の構築など、八つの指標を満たすことが条件となります。教員や保護者だけでなく、児童が主体となって活動することも必要とされています。市内では、清水小を巣立った子どもたちが多く通う睦合東中学校でも、2015年11月の認証取得を目指した活動が展開されています。

私たち運営委員会は、ISS 活動のまとめ役です。いじめと暴力を防ぐ「四つ葉のクローバーキャンペーン」やあいさつ運動、廊下での歩行を呼びかけるパトロールなどをしています。

12の委員会はそれぞれの役割に従い、けがマップ作りや朝会での安心安全クイズ出題、図書室の安心安全の本コーナー設置など、けがを予防するために力を合わせて取り組んでいます。

安心・安全の活動は、地域でも行われています。登下校の時には、地域の方が私たちを見守ってくれます。安全マップ作りへの協力や青パトでのパトロールもしてくれます。他にも、家の周りには、いざという時に家に逃げ込める「かけこみポイント」がたくさんあります。地域の皆さんのおかげで、私たちは安心して生活ができます。

2014年度につくられた環境委員会では、絶滅危惧種などがあるビオトープの管理をしています。「外来種を入れてはいけない」「土に還らない物は入れない」などのルールを1年生に教えています。命を大切にする優しい心を持ってもらうためです。

「ゆるキャラ」もつくりました。募集したキャラをみんなで「選挙」した結果、「ミクリちゃん」が誕生しました。

交通ルールを学び、自転車の運転技能を上達させるため、毎月練習しています。地域の方々の指導を受け、自転車大会にも毎年出場しています。

清水小の児童はヘルメットを使う割合が高く、着用率は全校児童の90％になります。

## 和田傳文学賞

優れた作文や詩、短歌、俳句を創作した市内の小中学生に贈られる文学賞です。文芸作品の創作を通して児童・生徒の文学的資質を高め、教育の充実・向上につなげようと実施されています。郷土の農民文学作家で名誉市民の故和田傳先生（右）の遺志による寄付金で創設した「和田傳文学基金」を基に1986年に始まりました。毎年、素直な心と豊かな感性を感じさせる力作がそろいます。

## 緑ケ丘小学校

### ～自主性を伸ばすエコスクール活動～

緑ケ丘小学校は、国際的な環境教育プログラム「エコスクール」の県内初の認証校です。2011年に取り組みを開始し、2013年3月に認証の証し「グリーンフラッグ」を取得。取り組みは、後輩たちに引き継がれ、今も全校児童が環境に関する課題を考え、改善に向けた取り組みを自主的に進めています。市内では、緑ケ丘小学校、戸田小学校、相川小学校がフラッグを取得。取得に向けて取り組む学校も増えています。

### ● エコスクール ●

国際的な環境団体「FEE(環境教育基金)」が運営し、世界56カ国で約1400万人の子どもたちが取り組んでいます。課題の決定や調査・計画・実行など七つのステップを児童・生徒を中心に教員や地域が一体となって進め、審査に合格すると、認証の証し「グリーンフラッグ」を取得できます。国内では、小学校5校、高校1校、保育園1園がフラッグを取得しています。

毎月1回、午前8時半から全校児童で掃除をするクリーングリーン作戦です。学年ごとに持ち場を決めて、校庭など学校の中だけでなく、周りの道路や近くの公園などにも行ってゴミや落ち葉を拾っています。

エコスクール活動の中心となっているのは、飼育栽培委員会ですが、全校で取り組むため定期的に「エコスクール会議」を開いています。委員会ごとに活動の状況を報告し、これからの取り組みを決めています。全クラスでも年間の目標を立て、エコ活動に取り組んでいます。これからは、学校だけでなく地域全体にも活動を広げていきたいです。



エコ活動が評価されて、キリン福祉財団から助成してもらい、花の苗を花壇とプランターに植えました。植えた後も、みんなで協力して水やりや草取りなどの手入れを続けています。きれいな花がいっぱいの、明るい学校にしていきたいです。

## 厚木こども科学賞

株式会社半導体エネルギー研究所（SEL）からの寄付で創設した「SEL教育基金」を基に、2009年から開催しています。子どもたちの「理科離れ」が進む中、学校や日常生活における自然科学分野の自由研究や科学作品の中から優れたものを表彰し、科学に対する興味・関心を高め、科学的な思考力や表現力などを育んでいます。身近な現象への疑問をきっかけに、独自の視点で研究調査・実験に取り組んだ作品が毎年寄せられます。

長谷にあるSEL 本社



## 厚木中学校

### ～花や緑、人と触れ合うまちづくり～

厚木中学校は2014年、全国花のまちづくりコンクールで「優秀賞」を受賞しました。団体部門に応募のあった1825の取り組みの中から大賞に次ぐ賞を獲得。ＰＴＡや地域住民を巻き込んだ植栽活動と、花を介した地域活動の担い手づくりの取り組みが高く評価されました。活動の中心は、2013年に新設された「ボランティア活動部」です。さまざまな地域貢献活動に取り組むだけでなく、他の生徒にも参加を呼びかけ、学校と地域をつないでいます。

### ● 全国花のまちづくりコンクール ●

花や緑があふれるまちづくりを、全国に普及･定着させようと開催されているコンクールです。市町村、団体、個人、企業の4部門で優秀な活動を表彰し、広く紹介しています。大阪市で開催された「国際花と緑の博覧会」の基本理念「自然と人間との共生」を受け継ぎ1991年から始まりました。住民や団体などと行政が役割を分担し、地域の実情に沿った独自の活動を展開することが求められます。

ボランティア活動部では、花植え以外にも公民館行事の運営補助や介護施設への慰問、校内の扇風機などの備品清掃、公園や道のごみ拾いなどをしています。

花の植栽活動は、2007年から「あつぎ花のまちづくり推進委員会」の皆さんと協力して実施しています。本厚木駅から学校へ続く歩道の花壇に年３回、２千～３千株の花を植え付けています。花が増えると、街がカラフルになって、明るい気持ちになります。

運動会の運営の手伝いや大がかりな花壇の植栽では、他の部活動の生徒にも参加を呼びかけます。さまざまなボランティア活動をする上で、学校と地域との橋渡し役にもなっています。

中学校前の道路里親になり、花壇の管理も始めました。ボランティア活動をして、感謝の言葉を頂けると励みになり、何に対しても前向きに取り組めます。これからも長く活動に携わり、ボランティア精神を多くの人に伝えていきたいです。

## 青少年発明コンクール

次代を担う青少年のものづくりへの関心や意欲を高め、産業の発展に欠かせない発明考案の力を養おうと、市内の小中学生を対象に開催しています。実業家で名誉市民の故松川サクさん（右）から寄せられた寄付金で創設した「松川サク工業振興基金」を基に実施しています。毎年、柔軟な発想から生まれた、創造性あふれる作品が寄せられています。

建築家
# 石上純也さん

# ISHIGAMI JUNYA

## 常に高い「厚木クオリティー」を維持し発信するまちに

「未来の建築の鍵を握っているのは、ISHIGAMIだ」――。日本国内はもちろん、世界中の建築家から高い評価を受けている、厚木市出身の建築家、石上純也さん。現在もアジア、ヨーロッパ、北米、南米とワールドワイドに活躍している石上さんに、厚木時代の思い出や仕事への思い、未来を担う子どもたちへのメッセージを語っていただきました。

**厚木で育った石上さんは、どんな少年だったのでしょうか？ また、どんな思い出がありますか？**

外で遊ぶのが好きだったし、物を作るのも好きな子どもでした。モノ作りで言えば、ロボットやゲームなど、自分で新しいモノを作っていました。

思い出はいろいろありますが、今でも僕の中に刻まれているのは、自分が育った鳶尾団地ですね。当時は完成して間もなくピカピカで活気にあふれたところで、子どもがたくさんいて、日曜日にはマーケットが開かれて。きれいでにぎやかで楽しかった記憶があります。あと、鳶尾山にハイキングコースができたのも子どもの頃で、よく遊びました。

**石上さんは現在、建築家として世界で活躍されていますが、どんなきっかけで建築家を目指したのでしょうか？**

大学の建築学科に入ったのは、「モノ作りが好き」という単純な動機でした。建築が面白いと思ったのは、建築学科で勉強をしてからです。入学した頃は、どんな建築家がいるのかも知りませんでしたね。

**未来の主役となる子どもたちへのメッセージをお願いします。**

自分で発信できる人になってほしい、というのが率直な気持ちです。今の世の中って、インターネットを使って調べれば、だいたいのことは分かります。でも、世界はそこで得られる情報以上に広く、さまざまな価値観や文化が存在しています。自分で発信するには、簡単に知ることができる情報だけではなく、自分自身で情報を得ることが大事です。子どもたちには、どんどん外の世界を見て、いろんな人と出会って自分を磨いてほしいですね。みんながそうなれば、もっと開かれた世界になると思います。

**最後に、石上さんが願う「厚木のまちの姿」は？**

常に高いクオリティーを維持して発信するまちであってほしいです。実際に、ロボット産業といった最先端から豊かな自然などさまざまな価値観と個性の「厚木クオリティー」があるので、それをどんどん創り出して、地域の人たちが中心となって厚木の魅力を発信してほしいと思います。それが地域の活性化に繋がり、厚木に住む人たちのエネルギーになると信じています。

**現在は独立されて、「アミューあつぎ」8階の屋内広場とロゴデザイン、市内にある神奈川工科大学「KAIT工房」の設計なども手掛けられました。**

「アミューあつぎ」のロゴは、「アミュー」という発音が持つ明るく軽やかでかわいい語感をイメージして、未来を夢見て心が躍り誰もが親しみを持てるデザインを、という思いで作りました。そして、8階を設計する上で目指したのは、老若男女が心地良く過ごせる空間でした。考えたのは「空間を大切にするために、できるだけ何もしないこと」。床の色も、どんな年代の人でも落ち着けるようにシンプルにして、空に浮かぶ雲をモチーフにしたパーテーションもきっちり仕切らず、広がる空間を妨げないように設計しました。

「KAIT工房」は、建物ではなく広場をイメージして設計しました。閉じた箱ではなく、外から見ても建築の中に新しい風景があり、その風景の一部として子どもが陶芸をしたり、学生が飛行機を作ったりするのが見えればいいなと。壁をガラス張りにしたのはそういうコンセプトがあったからです。305本の柱を入れたのも、森の林間学校でおのおの空間を見つけて自由に創作活動を楽しむイメージから生まれたものです。

僕が子どもの頃によく遊んだ鳶尾山やハイキングコースも、子どもに優しい空間でした。これら二つの施設の設計には、そんな厚木時代の原体験の影響があったのかも知れませんね。

amyu
アミューあつぎのロゴマーク

**Profile** 石上純也　いしがみ　じゅんや

| | |
|---|---|
| 1974年 | 厚木市出生 |
| 1993年 | 県立厚木高校卒業 |
| 2000年 | 東京芸術大学大学院　美術研究科建築専攻修士課程修了 |
| 2000-2004年 | 妹島和世建築設計事務所勤務 |
| 2004年 | 石上純也建築設計事務所設立 |
| 2010-2012年 | 東北大学大学院特任准教授 |
| 2014年 | ハーバード大学大学院　客員教授 |
| **主な受賞歴** | |
| 2008年 | 神奈川県文化賞　未来賞 |
| 2009年 | 日本建築学会賞　作品賞 |
| 2010年 | 第12回ヴェネチア・ビエンナーレ　国際建築展　金獅子賞<br>毎日デザイン賞 |
| 2012年 | 文化庁長官表彰　国際芸術部門 |

アミューあつぎ8階屋内広場「Sola」

KAIT工房

いきものがかりボーカル

## 吉岡　聖恵さん

**Profile**　よしおか きよえ

1984年生まれ、厚木市出身。3人組の音楽グループ「いきものがかり」のボーカル担当。バンド結成当初は、地元の厚木・海老名で路上ライブ活動を行う。2006年のメジャーデビュー以来、国民的J-pop グループとして人気を博している。

Kiyoe

厚木市制60周年、本当におめでとうございます。

緑が多く、畑や田んぼもたくさんある、温泉もある、そんな豊かな環境やのどかさも、にぎやかな街も、厚木の素晴らしい魅力だと感じています。厚木育ちの私は小学生の頃、地元のドッジボールチームに所属していたり、児童館合唱団に毎週通い毎年行われる合唱の発表会に参加したりと、とても楽しかった思い出があります。地域の方々は、いつも温かく支えて下さいました。本厚木の駅前で、いきものがかりとして路上ライブをさせていただいたことも、自分の中ではとても大きな出来事でした。

厚木市が、これからも素敵な街であり続けてくれますように、心からお祈りしています。

プロサッカー選手

## 大儀見　優季さん

**Profile**　おおぎみ ゆうき

1987年生まれ、鳶尾小・荻野中・厚木東高卒業。2004年から日本代表に選出され、北京オリンピック4位、FIFA 女子ワールドカップドイツ大会優勝などを果たす。現在は、ドイツのヴォルフスブルクに所属。

このたびは、市制60周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

私は20年余りを厚木で過ごし、小学生の頃は緑ケ丘小や戸室小で練習に励んでいました。好きな場所は荻野運動公園です。家族でサッカーやキャッチボールをし、ローラーコースターで遊んだ思い出があります。

厚木の子どもたちには、夢を大切にしてチャレンジしてほしいです。辛く、苦しいこともあると思います。「逃げるエネルギーがあるなら、とことんぶつかった方がいい」。そこで得られる感情や経験は、かけがえのない財産になるはずです。私も人の役に立てるよう、チャレンジする勇気やメッセージを届けられる人間になっていきたいです。

バレエダンサー

## 菅井　円加さん

**Profile**　すがい まどか

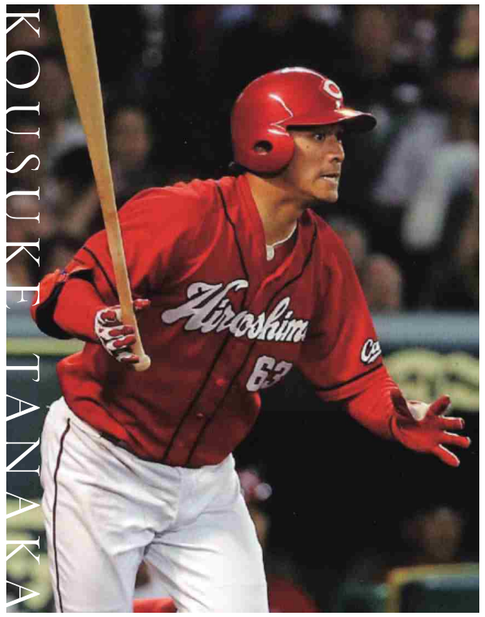
1994年生まれ、小鮎中卒業。3歳でバレエを始め、2012年2月に新人の登竜門「ローザンヌ国際バレエコンクール」で1位に輝く。現在はドイツの名門「ハンブルク・バレエ団」に所属し、世界の舞台で活躍中。

菅井円加

市制60周年、おめでとうございます。

厚木市を離れて2年。私は今、ドイツを拠点にバレエ漬けの毎日を送っています。高校生まで過ごした厚木市では、若宮公園やぼうさいの丘公園に、犬の散歩やドングリ拾いに行っていました。厚木市は緑が多く、すぐそばに山や川がある素朴なところが大好きです。

厚木の子どもたちには、「夢」を持ってそれに向かって進む強い気持ちや、「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にしてほしいと思います。私もバレエで培ったことを生かし、人間として、女性として、ダンサーとしてさらに成長していきたいです。いつまでも「進化し続けるダンサー」でありたいと思っています。




プロ野球選手

## 田中　広輔さん

**Profile**　たなか こうすけ

1989年生まれ、依知南小・依知中卒業。2013年のドラフトで広島東洋カープから3位指名を受け入団。2014シーズンはルーキーながら110試合に出場し、打撃や内野の守備で活躍し、チームのクライマックスシリーズ進出に貢献した。

市制60周年おめでとうございます。

子どもの頃の記憶と言えば、下依知地区の「ひまわりソフトボールチーム」で、練習に明け暮れていたことがすぐに頭に浮かびます。夏には鮎まつりを見に行ったことも思い出深いです。

生まれ育った厚木市は、都会過ぎず豊かな自然が残る大好きなまちです。そんな厚木で暮らす子どもたちには「あきらめなかったら夢は叶う」という言葉を贈りたいです。自分でこれと決めたことには、とことん打ち込んでほしいと思います。

私も野球と向き合い、チームの日本一に貢献し、将来は球界を代表するような選手になれるよう頑張っていきます。

ATSUGI MOVEMENT

# あつぎ舞台アカデミー

## ～厚木から未来のスターを～

「子どもたちの才能を発掘し育てたい」。あつぎ舞台アカデミーは、厚木高校出身で劇作家・演出家の横内謙介さん（あつぎ文化芸術特別大使・文化振興財団芸術監督）の強い思いから生まれました。第一線で活躍する講師から演技とダンス、歌の指導を受け、日々成長を続ける子どもたち。自分に秘められた可能性を見つけ大きく羽ばたこうとしています。

### 夢を描いた手作りの舞台

厚木シアタープロジェクトの一環として、2010年に開校されたアカデミー。毎年夏休みの終わりに舞台公演「ドリーム・ドリーム・ドリーム」を文化会館で披露しています。子どもたちの指導に当たるのは、横内さんのほか、振付師のラッキィ池田さんと彩木エリさん、ハロープロジェクトなどのアーティストのボーカルレッスンをする上野まり子さんです。子どもたちが描くさまざまな夢から仕立てられた台本を基に、一つの舞台作品を創り上げます。

**★ 厚木シアタープロジェクト★**

横内さんが主宰する劇団扉座と文化会館、市民応援団（ボランティア）が一体となって、市の演劇文化を高めようと1999年にスタートした文化振興財団の事業。市民が本物の舞台に立てる公演や人材育成などを展開し、市の芸術文化を広く発信しようとする取り組みです。

舞台を元気に跳ね回る子どもたち。毎年春に新メンバーが募集される

▲丁寧に演技指導をする横内さん
◀レッスンに励む子どもたち

### 団結して創る舞台で大きく成長

アカデミーに参加しているのは、小学４年から中学２年までの子どもたち。「すごい先生に教えてもらえるのでレッスンが毎回楽しみ」「公演をやり遂げると感動で大泣きしちゃう」「本音をぶつけ合える大切な仲間ができた」と瞳を輝かせます。

子どもたちが大きな成長を遂げる場は、公演前に行われる夏休みの集中稽古。多くの人と団結して舞台を創る1カ月間は、かけがえのない時間となります。メンバー内のオーディションを勝ち抜いた者だけがソロで歌う権利を獲得できるなど、切磋琢磨し合える環境があります。横内さんは「自らを輝かせる術を身につけ始めている。これは将来どんな道に進んでも生きてくる力となる」と教え子の成長に目を細めます。

### 秘められた可能性を見つけ羽ばたく

アカデミーの卒業生の中には、オーディションに合格しテレビなどに出て活躍し始めている子もいます。脚光を浴びる舞台に立つことは、子どもたちにとって決して遠い世界の話ではありません。「今まいている種が将来、どんな花を咲かせるか本当に楽しみ」と期待に胸を膨らませる横内さん。「自分の中に眠っている可能性を今こそ発見してもらいたい」と力を込めます。

優れたアーティストを育てる「人づくり」と、エンターテインメントとして成立する「舞台づくり」を実践するアカデミー。未来のスターが今、文化会館の舞台で最初の一歩を踏み出しているのかも知れません。そして「やがては厚木市を、優れた人材と作品を生み出す文化芸術の拠点に…」。高く掲げた目標に向け横内さんの挑戦は続きます。

公演のクライマックスではオリジナルソング「キズナの翼」を熱唱

**2015 厚木市制 60 周年記念誌**
発行日／2015 年 2 月 1 日
発行／厚木市
企画・編集／政策部広報課
〒243-8511　神奈川県厚木市中町 3-17-17
TEL.046-223-1511
http://www.city.atsugi.kanagawa.jp/
編集・デザイン／株式会社 文化工房
表紙絵・裏表紙絵／又村和夫